

## JR 連合主催

# 「第13回業種間安全検討委員会」開催!!

JR連合主催の「第13回業種間安全検討委員会」が、8月26日に北海道の地で開催されました。これはJR以外の産業・企業における安全確保やコンプライアンス遵守などの取り組みを学び、JRの安全の確立に活かすための勉強会として開催しています。13回目の今回は日本製紙北海道工場勇払事業所（苫小牧市）を訪問、JREユニオンもJR連合の各単組代表者の仲間とともに参加してきました。



勇払事業所は、東京ドーム101個分程という日本の製紙工場の中でも最大の広さを持っており、敷地には小動物が頻繁に顔を出す自然豊かな工場です。そういった環境の中で始まった委員会は、事業所の組合を代表して紙パ連合北海道地方本部の今野委員長から、工場や組合の歴史、これまでの取り組みを中心に挨拶いただき、会社からは石井所長より、「安全への取り組みは労組・会社側とも思いは同じであり、より良いものにしていくために大変いい機会である」と歓迎の挨拶を受けました。JR連合を代表し挨拶に立った尾形安全対策副委員長は、脱線事故やJR北海道での隠蔽、また重大労災に関係した死亡事故について述べ、「工場での取り組みを参考にしていきたい」と語りました。

その後、DVDを使い工場や事業所の概要を説明していただき、また、東日本大震災で被害にあった日本製紙石巻工場の「復興への道」を放映してもらいました。同工場は組合員・社員が一丸となり復興を果たし、今では「町の誇りであり希望の星である」といわれています。屋内から外に出て広い事業所内をバスで移動しながら、製造工程やそれに伴う危険箇所・危険作業に対する取り組みについて説明していただきました。



見学を終えて意見交換の場を持ち、事業所側、JR連合側の安全に対する取り組みを紹介し意見を出し合う中で、いろいろな角度から多面的・複合的に考え見ていかなければ、安全の確立には繋がっていかない事を再認識しました。これからもジェイアール・イーストユニオンは安全検討会や安全対策委員会に積極的に参加し、安全の確立を前進させていきます。